

倫理法人会は、会員が人間性を磨き、それによってより良い家庭やより良い職場をつくり、より良い人生を歩んでいく、そのための純粹倫理を介した学びの場です。

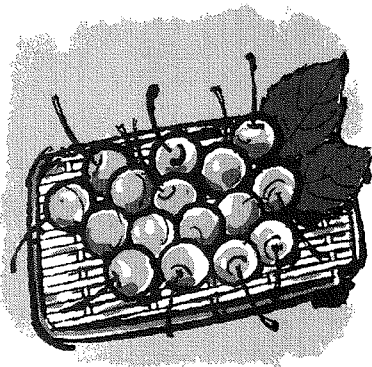
そして、ともに学ぶ仲間を増やすことで、より良い家庭や職場を地域に増やし、それを全国で展開し、日本を創造的に再生させる、日本創生に寄与することを目的としています。

倫理法人会には三通りの学び方がありません。一つ目は、学びの場に参加することで、皆、まずはここからスタートします。

二つ目は、役割を担う学びです。例えば、経営者モーニングセミナー（以下MS）では、進行や朝の挨拶、誓いの言葉などの役割があり、それを果たすことで学びを得ます。また、運営者は五時から集まり、会場設営やリハーサル、MS朝礼など様々な準備をします。参加者がどうしたらより良く倫理を学べるか、再び来たいと思ってもらえるかを考え、工夫し、会の運営を行なうのです。これは一人ではなく、複数人で行なうため、この経験を会社や店舗における組織づくりに活かすことができます。

三つ目が仲間づくりを通しての学びです。倫理の実践によって家庭や職場が良くなった体験を他者へ伝えることも大切です。周囲の人や地域、ひいては日本を良くするという大義を掲げ、世のため人のために尽くす行動から得るものは大きいでしょう。

▼ 倫理法人会において、専任幹事の職を受



すべてを前向きにとらえ 仲間づくりに勤しむ

けたA氏の体験談です。A氏は仲間づくりの先頭に立ち、懸命に多くの会社を訪問するも、話を聞いてもらえない日々が続いていました。そんなある日、ふと気づいたことがありました。訪問先に足を踏み入れた途端、目につくものすべてをネガティブに受け止めている自分がいたのです。受付に笑顔がないと「社長には取り次いでもらえないだろう」、雑然とした職場だと「倫理には縁がないだろう」、相手の社長が怪訝な顔をする（入会は難しいな）、とすべてをマイナスにとらえていたのです。

これではいけないと一念発起し、すべてを前向きにとらえるようにしました。すると訪問先の良いところに気づくようになっていきました。自然に、自身が笑顔になり、声も明るくなっていきました。それが奏功したのか、ある社長が入会を決断してくれたのです。以来、それまでうまくいかなかったと感じていた仲間づくりが、楽しくなっていきました。加えて、家族や社員の長所にも気づけるようになり、家庭や職場が明るくなっていったのです。

他者に何かを勧めるのは難しいことかもしれない。時には価値を認めてもらえず、傷つくこともあるでしょう。しかし、「情けは人のためならず」。高い志を持ち、人世に尽くす働きは必ず形を変えて自分に返ってくるでしょう。自分から進んで、苦難に踏み込んでいきたいものです。そこには自身に気づきを与え、成長させてくれる尊い学びがあるはずで